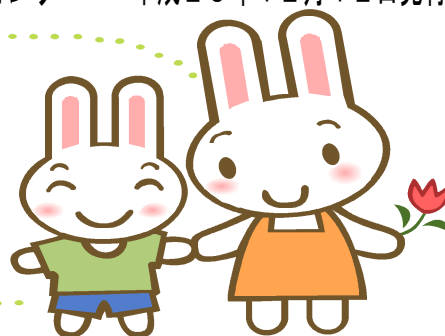




ぐんま 幼児教育センターだより

第27号



連携のさらなる充実を目指して

群馬県総合教育センター 幼児教育センター
センター長 小林 澄子

4月の異動以来、多くの先生方のお力添えをいただいて幼児教育センターの研修や業務を進めることができていくことに、心より感謝申し上げます。そして、幼稚園・保育所・認定こども園の参観を通して触れた就学前の子どもたちの姿から、この時期の保育・教育がいかにその後の人生の基礎となるかを実感しました。生活と遊びを通して試行錯誤し、心動かす体験をし、環境と関わって言葉や表現を身に付ける。その過程における先生方の関わりは、幼児の力を信じ、気付きや自主性・自発性を重んじるものでした。

前任校では校長先生の配慮で、ある年、幼稚園、保育園両方の卒園式に列席させていただいたことがあります。同じ「卒園式」なのに受ける印象は異なっており、校長先生は「文化の違い」と表現されていました。「これだけ違った環境と価値観の基で育った子どもたちが、一つの教室で過ごすことになるのだから、簡単には馴染めないよね」と。このことはスタートカリキュラムの必要性を物語っていましたが、当時の私はそれに気付くことができず、担任の経験知や工夫（ロッカーや引き出しについての絵表示、柔軟な時間割等）に委ねていました。入学したての子どもたちが戸惑わずに楽しく学校生活を始めるためにも全教職員の共通理解のもと、スタートカリキュラムを教育課程に位置付けたいものです。

一方、幼稚園・保育所・認定こども園においては、小学校との交流は進んできているものの、接続を見通した教育課程の編成・実施には課題があるようです。難しさを感じる園・所では、年長児における協同的な活動を充実させたり、就学を意識させた活動を取り入れたりすることを手始めにアプローチカリキュラムの編成に着手してみてもいいでしょうか。このことは小学校入学を不安なことと思うのではなく、楽しみに思えることにもつながるのです。

さて、平成30年度から実施が予定されている幼稚園教育要領は保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領との整合性が強く意識されたものになると聞いています。つまり、小学校への滑らかな接続を図る上でも、ヨコの連携が一層重要になることを意味します。幼稚園・保育所・認定こども園では、遊びや生活を通じた子どもの育ちの連続性を大切にして日々の保育・教育にあたること、小学校では、幼児期に培った「学びの芽生え」を引き継ぎ、「自覚的な学び」へと育み続けることが求められています。

幼児教育センターは、教育・保育に日々奮闘されている先生方のお役に立てるように、また、幼保こ小の連携についても、研修を通してお手伝いしていきたいと考えております。

ご協力をよろしくお願い申し上げます。





平成28年度

家庭教育充実のための地域で取り組む子育ての支援者研修会 実施報告

家庭教育の充実を目指し、地域で活躍する子育ての支援者のスキルアップを図ることを目的に、今年度も年間6回の研修会を開催しました。235名という大変多くの皆様に参加していただきました。



共通課題研修

9/21 館林市 9/28 渋川市 10/5 伊勢崎市 10/12 高崎市

テーマ：『乳幼児期の食に関する課題と支援』

「食に関する課題を持つ子どもが増えている」という昨年度の参加者の声を受けて、このテーマを設定しました。

前半の部 講義「偏食・少食・食物アレルギーについて」

講師：育英短期大学教授 星野 利子 先生

星野先生から、偏食、少食、食物アレルギーについての対応策や最新情報などについて講義していただきました。また、子どもたちとの信頼関係が大切であること、食事は楽しい雰囲気を作り、焦らず長い目で指導を続けていくこと、親子で食材を買い物したり食事作りをしたりすると良いこと、噛むことが大切であること等を教えていただきました。



後半の部 協議「食に関する自園の課題解決に向けて」

指導助言：青木淳子先生（館林市）、酒井幸江先生・須田俊枝先生（渋川市）

（開催市の保健師）堀越恭子先生（伊勢崎市）、小池由紀子先生（高崎市）

はじめに、保健師の仕事について説明していただきました。その後、偏食・少食・遊び食べ・食物アレルギー等のテーマ別に班を作り、課題を出し合い、それに対する対応策を協議しました。保健師の先生には班別々にアドバイスをしていただきました。



- 【参加者の声】
- ・日々悩んでいることへの対応策を学べ、大変ためになる研修会であった。
 - ・最新の情報や食物アレルギー等の話を聞くことができ参考になった。
 - ・具体的な事例を挙げてお話いただき、とても分かりやすかった。
 - ・普段接することのない保健師さんの話を聞くことができたことは貴重だった。
 - ・他の参加者と情報交換することで、様々な園の取組を知ることができた。



基本研修

6/6 群馬県総合教育センター

テーマ：「子育て支援の現状と課題」

「保護者を支える相談の在り方」

講師：臨床心理士 安田 淑美 先生



前半の「子育て支援の現状と課題」では、発達障害児を取り巻く保護者支援の現状と課題について説明していただきました。

後半の「保護者を支える相談の在り方」では、家族支援の必要性、保護者支援の留意点やポイント、ペアレントトレーニング、子どもへの支援について、具体的に分かりやすく教えていただきました。

【参加者の声】

- ・保護者支援の大切さやポイントが分かった。
- ・障害と判断することよりも、質的特徴を掴み、その子にあった環境を整理し、支援することの重要性を感じた。



実技研修

11/16 群馬県総合教育センター

テーマ：「親子でできる運動遊び・リズム遊び」

講師：チャイルドハウスゆうゆう施設長

今井 寿美枝 先生



親子で運動遊びをすることでスキンシップが図られ、笑うことで脳が活性化されること、運動遊びで筋力が鍛えられること、指先が器用になり認識力も高まることなどを教えていただきました。実際にいろいろな運動遊びを体験し、自分たちで運動遊びをアレンジすることも学びました。



【参加者の声】

- ・運動遊びのアレンジの仕方が分かってよかった。
- ・遊ぶことが成長や発達に繋がること、笑うことの大切さが分かった。
- ・乳児の発達について学んだので、保護者に伝えたい。

幼稚園教育要領等の改訂に向けて、これからますます子育ての支援がクローズアップされることが予想されます。来年度も、子育ての支援者の皆様のニーズにお応えできる研修を企画していきたいと考えています。



平成28年度 夕やけ保育研修会 実施報告



今年度の夕やけ保育研修会は、現在までに玉村町、沼田市、吉岡町、藤岡市、長野原町、みなかみ町、桐生市、東吾妻町、高崎市の9会場で開催し、356名もの先生方に御参加いただきました。夕やけ保育研修会の特徴は、講師や指導主事が県内各地に出向き、15時～17時頃に研修を行っていることです。また、前年度に県内各市町村に開催希望の有無や希望研修内容の聞き取りを行い、できる限り幼児教育の現場ニーズに合わせた研修会を目指している点も大きな特徴となっています。

今年度開催した研修会の内容の一部を紹介させていただきます。



乳幼児期に必要な運動遊び (吉岡町・東吾妻町・高崎市)

高崎健康福祉大学講師 山西 加織 先生

一昨年度実施した「幼児期の運動遊びに関する調査」の結果を基にして、県内の幼児の運動遊びに関する課題を挙げ、その解決を目指した運動遊びについての研修会を昨年度、今年度と継続して開催しました。

- ・子どもの「主体性」「楽しさ」の重要性
- ・子どもの「やってみよう」を引き出す環境の構成の重要性
- ・今やっている遊びをアレンジする具体的な方法

等を学ぶことが出来ました。

- 参加者の声
- 今までの遊びにひと工夫加えると、多様な動きの経験につながる事がわかった。
 - アレンジの意識や方法を具体的に学べてよかった。
 - 実習を通して学べてよかった。



気になる幼児を生活と遊びで支援する (玉村町・沼田市・藤岡市)

群馬医療福祉大学教授 北爪 浩美 先生

作業療法士 岩崎 清隆 先生

講師の先生方の豊富な臨床経験を基に、具体例や具体物を示しながら研修会を進めていただきました。

- ・乳児期からの発達の過程
- ・できることを認め、長い目で見ながら今必要なことを援助することの重要性
- ・気になる姿のもとにあるのは何かを考えることの重要性

等を学ぶことが出来ました。

参加者の声

- 最新の専門的な内容を分かりやすくお話いただき、発達障害の研究は日々進んでいると感じた。
- 気になる姿の原因の部分について考えることの重要性を再認識した。



今回は紙面の都合で紹介できませんでしたが、「身近な材料を使った造形遊び」(桐生市・みなかみ町)「幼児の見取りと保育の基本」(長野原町)も好評を頂きました。

夕やけ保育研修会 特別研修会

幼児期における人との関わりの重要性

～ 発達とコミュニケーション ～

申込み受付中
Fax または
電話で



日時 12月26日(月) 14:00～16:00 (受付 13:30～13:50)

場所 群馬県総合教育センター 704室

講師 松永 あけみ 先生

(明治学院大学心理学部教育発達学科教授)

人との関わりは生きていく上でとても大切で、その基盤は乳幼児期に培われます。コミュニケーションを豊かにするために、大人(保育者・保護者)は、どのような対応、環境構成を心がければよいのでしょうか？

乳幼児のコミュニケーションに関わる発達の過程や具体的な接し方を学んでみませんか？

松永 あけみ 先生 プロフィール
東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了。教育学博士。山形大学教育学部、群馬大学教育学部を経て現職。専門は発達心理学で、特に、社会性の発達とそれを支える保育のあり方の研究が専門。中でも、子ども同士の他児認知と仲間関係の発達、および、それを支える保育者の対応について研究されています。

紙芝居ワークショップ
申込み(先着順)
1/25まで
Fax または Web で

平成28年度 ぐんま教育フェスタ

豊かな心を育む ものがたりの世界

～ 紙芝居ワークショップ、紙芝居展、絵本の展示・紹介 ～



	紙芝居ワークショップ	紙芝居展	絵本の世界
日時	2月4日(土) 11:00～12:30	2月4日(土) 10:10～14:45	
場所	2階 サロン	2階 サロン	カリキュラムセンター
内容	講義・実習 「紙芝居の演じ方のポイント」 「紙芝居のたね」代表 水出 真弓 先生 「紙芝居のたね」所属 岡部 千尋 先生 様々なジャンルの紙芝居の上演を楽しみ、講師から紙芝居の魅力について何うと共に、演じ方のポイントなどを学び、実習することを通して保育技術の向上を図ります。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">定員 50名 先着順</div>	土屋文明記念文学館 移動展 「紙芝居展」 紙芝居の歴史をたどるパネル・写真資料や街頭紙芝居、教育紙芝居等の実際が分かる資料を展示します。	絵本の展示・紹介 子どもの夢を広げる絵本、子どもの知的好奇心を高める絵本など、乳幼児にふさわしい絵本約150冊を展示・紹介します。
申込み	必要 Fax または Web でお申し込みください。申込みフォームは、本センターWebサイトに掲載しています。	不要	

【お詫び】

8月19日(金)に開催した公開講座「これからの幼児教育を考える」には、234名もの方々に参加していただきました。本当にありがとうございました。

しかし、当日は会場である講堂の冷房設備が故障し、蒸し風呂のような状態の中で研修をしていただくことになってしまいました。本当に申し訳ありませんでした。

現在、講堂の冷房設備は修理中です。今後は研修効果の上がる環境の中で、充実した研修が実施できると思います。

参加してくださった皆様、大変申し訳ありませんでした。

お申込・お問合せ先

群馬県総合教育センター

幼児教育センター

住所 伊勢崎市今泉町1-233-2

電話 0270-26-9203

FAX 0270-26-9222

Web <http://www.nc.center.gsn.ed.jp>

